

第33回国立国会図書館関西館資料展示を開催します

はて
「果しなき想像の果」 はて
—SFの想像力が創造した未来—

(2/20-3/18)

未来を夢見るはてしなき想像力と、その夢を実現する科学技術によって、人類は社会を発展させてきました。本展では、想像の世界を描くSF小説と実際の科学技術に関する資料を対比させながら、宇宙技術やインターネットといった革新的な技術、万博やけいはんな学研都市のような社会実験となったプロジェクトなど、幅広いテーマの資料をご紹介します。人類の想像力と科学技術が生み出した社会の変容をたどることで、現代社会が抱える課題の解決のヒントを探ります。

未来を創造する力は、一人ひとりの想像力の中にあります。想像力を刺激し、新たな視点から社会を見つめ直すきっかけとしませんか？



○概要

開催期間：令和7年2月20日（木）～3月18日（火）（日曜・祝日は休館）

開催時間：午前9時30分～午後6時

展示資料数：約100点

会場：国立国会図書館関西館 閲覧室（地下1階）

（〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3）

入場：無料・年齢制限なし（18歳未満の方は所定の手続の上でご覧いただけます。）

問合せ先：国立国会図書館関西館 資料案内（電話：0774-98-1341）

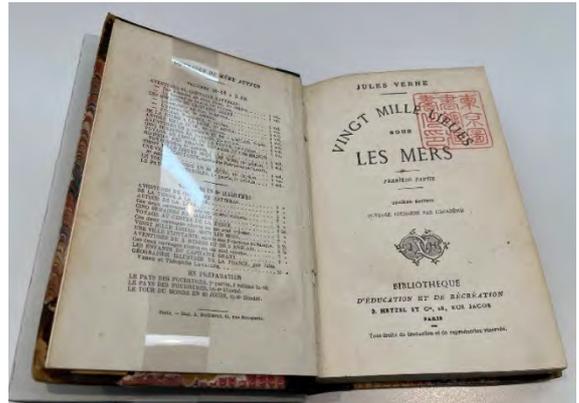
URL：https://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/kansai_202502.html

○展示資料例

『Vingt mille lieues sous les mers / par Jules Verne. 11. éd』

Hetzl, [187-?] 【78-39】

ジュール・ヴェルヌ『海底二万里』のフランス語原著。資料に捺された受入印には「明治八年購求」とある。日本で初めてヴェルヌの作品が翻訳されたのは明治11年とされており、本書は翻訳に先立って輸入された資料である。



『スプートニク：ソ連の人工衛星のすべて』

ソ連文化省 編, 朝日新聞社 訳, 朝日新聞社, 1958 【538.09-R65s】

1957年10月4日、ソ連は人類最初の人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功し、その1ヶ月後にはライカという名前の犬を乗せたスプートニク2号を打ち上げた。この成功は全世界に驚きを与えたが、とりわけアメリカにとっては軍事的脅威と受け止められ、1960年代の米ソによる宇宙開発競争が激化するきっかけとなった。

本書は、打ち上げ翌年に刊行されたスプートニクの解説書。ソ連科学アカデミーの研究者たちによる当時最新の学術資料が、豊富な写真や図解とともにまとめられている。冒頭には、1933年に録音されたツィオルコフスキーの言葉が載る。校閲は東京天文台（現国立天文台）の長であった宮地政司。

『巨大プロジェクト動く：私の「万博・花博顛末記」』

小松左京 著, 広済堂出版, 1994.7 【D7-E110】

SF作家小松左京は、1970年の大阪万博と1990年の国際花と緑の博覧会（花博）の双方で中心的な役割を担った。本書は、大阪万博終了直後の1970年に書かれた文章に、1993年に書かれた花博の回顧録を追加したものである。大阪万博ではブルドーザーに例えられた馬力を発揮する一方、花博では周到に根回しを進めた様子がうかがえる。この巨大大業で得た経験と人脈は、やがて「けいはんな学研都市」に結実する。

* 【 】は当館請求記号

○取材について

開催期間中（土曜日、日曜日、祝日を除く。ただし2月22日（土）は可能）は午前9時から午後7時まで撮影が可能です。ただし、来場者がいる午前9時30分から午後6時の間は、来場者の撮影、周囲に聞こえるような音声を伴う撮影、大人数による撮影等のご遠慮いただく場合があります。なお、照明器具を使用する撮影はできません。撮影をご希望の場合は、来館前にご連絡ください。

関連講演会（2/22 14:00～） 「人新世で残らないもの」

資料展示の関連イベントとして、円城塔氏（作家）をお招きした講演会を行います。

○概要

日時：令和7年2月22日（土）14:00-15:30

会場：国立国会図書館関西館 大会議室（地下1階）

定員：150名（申込要、抽選制。参加費無料）

申込方法：Webフォーム

URL：https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/kansai_20250222.html



○講師紹介

作家 えん じょう とう 円城 塔 氏

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）。2007年「オブ・ザ・ベースボール」で第104回文学界新人賞受賞。2012年「道化師の蝶」で第146回芥川龍之介賞受賞。2019年『文字渦』で第39回日本SF大賞受賞。主な著書に『Self-Reference ENGINE』（早川書房、2007）、『Boy's Surface』（早川書房、2008）、『これはペンです』（新潮社、2011）、『屍者の帝国』（伊藤計劃との共著、河出書房新社、2012）がある。

（写真は本人提供 ©新潮社）



○講師から

携帯端末の普及や作業の電子化、知識のデータベース化、人工知能の急速な発達などで、文字メディアはさまざまな方向から激変にさらされています。流通する文字の量は増えていますが、そのまま消えていくもの、公開されえないものもまた増加しています。

ふだん小説を書いて暮らしている立場から、文字メディアの発信や受容の変化について実体験を交えつつ紹介します。

○資料展示及び関連講演会 問合せ先

展示内容について：国立国会図書館関西館 資料展示班 下村（電話：0774-98-1485）

取材申込み：国立国会図書館関西館 総務課総務係（電話：0774-98-1225）

（※）当資料に掲載した資料及びチラシ画像は、当展示会の広報の目的でお渡しすることができます。画像掲載の際には書誌情報及び当館所蔵であることを明記してください。